

みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



© 2015 - WHY NOT PRODUCTIONS - PAGE 114 - FRANCE 2 CINEMA - PHOTO: PAUL ARNAUD

ディーパンの闘い

第40回上映会

2018年 **3月10日** [土] 13:30~16:30 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階 講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

Dheepan

2015年/フランス/115分/フランス語・タミル語・英語/日本語字幕付き

監督/ジャック・オディアール

主演/アントニーターサン・ジェスターサン カレアスワリ・スリニバサン

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 杉本良男 (国立民族学博物館・名誉教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 企画課博物館事業係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



みんなくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。9年目の今期は〈人類の未来〉をキーワードに、映画上映を展開しています。今回はフランス映画「ディーパンの闘い」を上映します。戦火のスリランカから逃れ、フランスで新しい生活を始めた“偽装家族”を通して、難民の状況について考えたいと思います。

第40回上映会

2018年3月10日(土) 13:30~16:30 (開場 13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階 講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

ディーパンの闘い Dheepan

2015年/フランス/115分/フランス語・タミル語・英語/日本語字幕付き

監督/ジャック・オディアール

主演/アントニーターサン・ジェスターサン カレアスワリ・スリニバサン

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 杉本良男 (国立民族学博物館・名誉教授)

映画解説

見ず知らずの女性と少女と家族を装い、内戦下のスリランカからフランスに逃れた元兵士の、孤独な奮闘を描く重厚な人間ドラマ。反政府軍として身を投じた激戦で妻子を失い、名前を“ディーパン”と改めた彼は、行動をともにする偽装母娘と難民審査を何とか切り抜け、パリ郊外の団地で管理人の職を得る。言葉も解らず不慣れな土地で、実の家族として振る舞う息苦しさや苛立ちから、何かと三人は衝突するが、向上心いっぱい新生活に順応する娘に、大人たちも感化されていく。親愛の情が育まれる中、祖国に葬り去ったはずの過去や、都会の片隅に巣食う暴力が、彼らに襲いかかる。社会の混沌をえぐる意欲作で、国際的に賞賛されるフランスのジャック・オディアール監督が、深刻度を増す移民問題を背景に、心身に傷を負う者同士が不器用ながら再生に向かう軌跡を、繊細かつ力強く映し出す。理不尽な現実にも自らの信念で立ち向かう猛者の気骨が、観る者の心を鷲掴みにし、カンヌ国際映画祭では最高賞のパルムドールが授与された。(映画評論家 服部香穂里)

タミル難民の苦難の歴史

インド洋の真珠と称えられたスリランカでは、1983年から2009年まで民族間紛争が続いた。政治経済的な思惑も絡んで、多数派のシンハラと比較的少数派のタミルとの対立が続き、双方に多くの犠牲者を生んだ。この間、主にタミル人がこの島国を出て、世界各国に難民、移民として流出した。1983年当時は、難民がビザなしで東ドイツに入り、その後ベルリンの壁を越えてヨーロッパに拡散したとまことしやかに語られていた。それ以降も難民の流出は続いたが、結局フランス、スイスなどに落ち着いた人びとが多かったようである。現在パリの北駅の周辺にはスリランカ出身のタミル人が固まって住んでいて、一帯がタミル人街のようになっているところがある。中には怪しい商売をして周囲からうとまれている人びともあったが、この映画ではそうした底辺に生きる難民の苦難がリアルに描かれている。主演のジェスターサン自身が、かつてタミル民族主義団体に所属し、逮捕経験もある。その後、スリランカを脱出し、各地を転々としてからパリに落ち着いたという。その来歴自体に、スリランカ・タミルの苦難の歴史がリアルに刻み込まれている。(杉本良男)

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館准教授 鈴木 紀

国立民族学博物館では2016年度より特別研究「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を開始しました。これは、現代文明の諸課題に対して解決志向型のアプローチをとる研究です。現代文明は物質的な豊かさと普遍的な価値観を広げましたが、同時に環境破壊や文化摩擦を生み出しています。民族学や文化人類学の立場からは、現代文明の矛盾はどのように現れるのか、そしてその解決策は何かを、地域社会や民族文化に視点を据えて考えることが重要です。みんなくワールドシネマのねらいは、この特別研究の問題意識を来館者の皆様と共有することにあります。世界の映画を通して、現代文明を問い直し、多面的な価値が共存する人類の未来を展望したいと思います。



© 2015 - WHY NOT PRODUCTIONS - PAGE 114 - FRANCE 2 CINEMA - PHOTO: PAUL ARNAUD

特別展開催のお知らせ

開館40周年記念特別展

太陽の塔からみんなくへ —70年万博収集資料

開催期間 2018年3月8日(木)~5月29日(火)



詳細はホームページをご覧ください。

写真:六田知弘

来年度のみんなく映画会の開催予定は4月以降にホームページでお知らせします。www.minpaku.ac.jp/

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420円/高校・大学生 250円/中学生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」, 「公園東口駅」徒歩約15分

●バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」
「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。 ※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。 ※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。 ※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[大阪・万博記念公園]

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10番1号

企画課 博物館事業係

Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242

www.minpaku.ac.jp/

